

- （有）正八は、園芸作物を主軸とした経営を行う中で、畑地を活かした飼料生産の観点から、平成25年、秋田県大潟村の大区画ほ場を利用して試験的に子実用とうもろこしの栽培を実施。
- 平成30年に導入したGPS搭載の播種機を用いて作業の高速化を図り、令和3年度は29.3haのほ場で子実用とうもろこしを栽培。
- 今後、子実用とうもろこしの販売先の確保や機械装備等による作業の高度化・高速化を進め、更なる子実用とうもろこしの作付面積・収量を拡大することを検討。

## 現在の取組

- ◆子実トウモロコシ栽培面積：29.3ha
- ◆収量：令和元年 680kg/10a  
令和02年 500kg/10a  
令和03年 539kg/10a
- ◆収穫時期：10月上旬～11月中旬  
（普通コンバイン）



- ・平成30年からGPS搭載の播種機を導入し、日没後の作業が可能となり、時間に縛られない作業を実現。
- ・収穫時の水分の目標値は、カビの発生を防止するためほ場で22%以下。
- ・収穫した子実用とうもろこしは水稻の乾燥機で乾燥、コンバインを改良した選別機を通してフレコンバッグで保管。
- ・令和3年は、新たに山形県天童市の畜産農家への販売を開始した。



大潟村



## 今後の取組

### 【生産物の流通】

- ・利用している畜産農家が、子実用とうもろこしの破碎方法や給与方法等を試行錯誤しながら家畜に給与している。  
→安定的な出荷と保管方法の確立が課題

### 【雇用の確保と規模拡大】

- ・面積当たりの投入労働時間を下げつつも、規模拡大を図るための手段を検討中。  
→経営内における作目の構成や機械装備等による作業の効率アップ

